



# 田中のりこの議会速報



【発行】 田中のりことみんなの会  
 【発行日】 2023年11月23日  
 【連絡先】 070-2172-8480(事務所用)  
 【MAIL】 tanaka-noriko@live.jp

ブログ 田中のりことみんなの会HP



WEB版

## 新しい駅周辺庁舎 自前建設に決定

11月22日に説明があった  
市庁舎整備特別委員会協議会

「賃賃が安い」主張 崩れる

マンション建設など難しい敷地面積

↓ 事業者のノウハウを活かせない

↓ 事業費の削減効果が低い

↓ 自前で建設のほうが総事業費安価



市民への説明責任を問う

広報ききょう(掲載(1月号))

住民説明会を一か所で開催

希望者には 出前講座で対応

(申し込み申請必要)

パブコメ(意見公募)は行わない

財源の確保を問う

▼ 事業の見直しは

令和7年度・8年度事業査定

一般財源(市の自己資金)上限設定

▼ 収支の見通しが厳しいのは

令和8年度・9年度

市債発行(借金)でやりくり

普通建設事業費が複数重なる

児童生徒数増加による

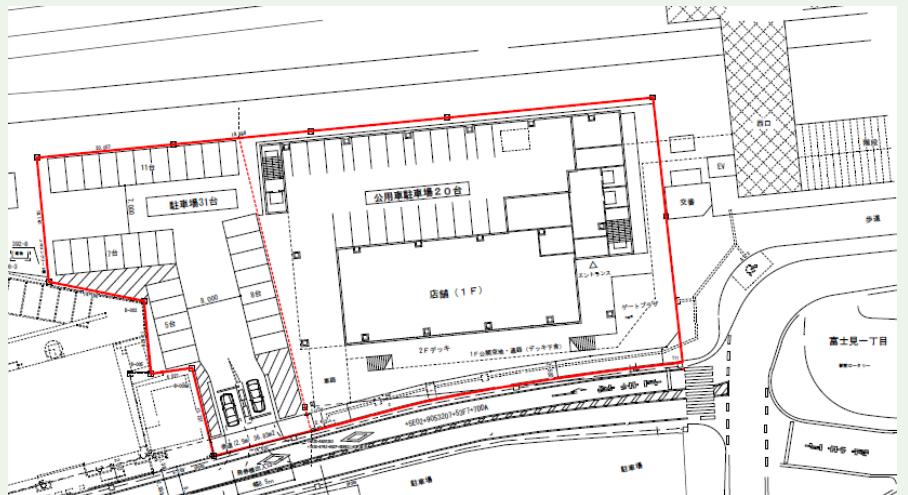
金田小中学校の増改築など

### 新たに分かったこと

### 11月22日、市庁舎整備特別委員会協議会にて

駅周辺庁舎は5階建て

	新朝日庁舎 (事業者)	西口 駅前駐車場	駅周辺庁舎
R5年	11/22 基本契約締結		自前建設決定
R6年	12月 設計業務 8か月	駐車場再開	設計業務委託 22か月
	1月		
	2月		
	3月		
	4月		
	5月		
	6月		
	7月		
R7年	建設工事 18か月	駐車場解体	建設工事 18か月
	8月		
	9月		
	10月		
	11月		
	12月		
	1月		
	2月		
R8年	供用開始	供用開始	供用開始
	3月		
	4月		
	5月		
	6月		
	7月		
	8月		
	9月		
R9年			
	10月		
	11月		
	12月		
	1月		
	2月		
	3月		
	4月		
R10年			供用開始
	5月		
	6月		
	7月		



赤枠で囲んだところが敷地

## 財源の確保を問う

**田中** 「財源確保のため、事業の査定を行った」というが、この査定とは

- ・重点事業はここまでやってもいいよという上限を決めたということか。
- ・それとも、重点事業と決めていたが、改めて、事業の優先度・緊急度等をポイントに重点事業を決めなおしたというのか。

**市** 重点事業と位置づけた事業は、上限額を設定したものである。上限額の設定は、既に位置づけていた事業と、新たに位置づける事業、それぞれの進捗状況等を踏まえ、事業執行時期の見直しや事業費の縮減、特定財源の確保などで、財源調整を図った。

**田中** 令和 8 年度まで査定したとのことだが、公共施設再配置計画、第 2 期実行プランはすべて査定の対象としたという解釈でよいか。

**市** 公共施設再配置計画、第2期実行プランには、重点事業に位置付けていない事業は査定していない。

**田中** 公共施設再配置計画、第 2 期実行プランが策定されたその 1 か月後に、上位計画と決めた木更津飛行場周辺まちづくり基本計画は？

**市** 木更津飛行場周辺まちづくり基本計画の中で、重点事業に位置付けた事業は、査定の対象とした。

**田中** 市庁舎が当初の6階建てから5階建てに変更する。ほぼ同時期に建設される建物が、規模縮小した市庁舎とそうでないものができたら、市民感情は後世にまでしこりを残すのではないかと懸念する。「市庁舎は仕切り直しなのに、吾妻公園の複合施設はこのままどんと建てるのか」と市民の声がある。

吾妻公園の複合施設は、今、実施計画を策定中。防衛省の補助金を活用といっても、事業総額などに対しての補助金であり、木更津市の一般財源を充てる額は、事業総額によって変わる。これも、重点事業の査定対象で上限を決めたのか。

**市** 吾妻公園の複合施設も重点事業の査定対象であり、他の重点事業と同様に、改めて事業費の上限額を設定した。現在、まちづくり実施計画の取りまとめに向け、事業費の精査を進めているので、それ次第で金額が変動することを見込んでいる。

**田中** 査定したというのは、どういうことなのか。

令和7年度		財源内訳				
重点事業		国	県	市債	その他	一般財源
協議額	67事業	20.8%	1.8%	26.9%	15.8%	34.8%
査定額	64事業	18.9%	2.1%	30.9%	18.4%	29.7%

令和8年度		財源内訳				
重点事業		国	県	市債	その他	一般財源
協議額	58事業	35.9%	1.1%	29.9%	3.0%	30.1%
査定額	55事業	36.7%	1.2%	34.4%	3.4%	24.2%

事業の数もあまり変動がなく、総額もあまり変動がなく、財源の割合をみたら、一般財源が減り、市債が増えている。つまり、査定とは、一般財源ですべきところ、市債(借金)でまかない、のりきりましょう。将来世代に負担を負ってもらいましょうということか。

**市** 今回の査定では、令和7年度以降の過大な財政負担を軽減し、後年度へ財政負担を平準化させ、計画的に財政運営を行うため、普通建設事業に対し、起債充当した。現在の市民と将来の市民が建設費を負担することで、税負担の公平性を確保できる。

### お知らせ

下記の日程、会場など詳細は

「広報きさらづ1月号」をご覧ください。

- 木更津市が行う住民説明会
- 市の職員が行う出前講座  
新たなMENU「新庁舎関連」

※ 田中のりこも出前講座を申し込もうと思っています。詳細は次回議会速報にて



### 声を大に

そもそも、市庁舎を建て替えるのに、自己資金力不足が最大のネックであり、建設のための基金を設け、積立始めた経緯があった。その基金も賃貸でも使えるように条例改正して今がある。

今回、その基金も使うであろうが、令和 8 年度、9 年度の厳しい時を乗り越えたら、将来世代の負担を軽減させるために、次の庁舎整備のための基金の積み立ても視野にいれていかねば、同じ過ちをしかねないし、また、そうさせてしまった議会の責任と将来世代から問われてしまうのではないかと懸念する。

基金の運用とその後について、見解も質問した。